



中国日本商会

今どきコラムー112

中国雑談

アップル・サプライチェーンから外された企業

中国のA株上場企業である欧菲光集団（オーフィルム・グループ）は米国のアップルのサプライチェーンから外され、資産の大幅な減価に追い込まれ、その影響は資本市場にとどまらず、社会的にもさまざまな議論を巻き起こした。

6月9日、欧菲光は深圳証券取引所の求めに応じ、「域外特定ユーザー」——実は米国のアップル社——に取引を停止されたことによる影響についての文書を発表した。その文書によると、欧菲光の資産減損は27億7100万元だったが、その93.04%が「域外特定ユーザー」である同社とその子会社との取引停止の影響であり、つまり、アップルのサプライチェーンから外されたことによって、その資産減損は約25億元に上ったのである。

この約25億元の資産減損に含まれるのは、主に固定資産、無形資産や建設仮勘定である。中でも大口はロボティック・プロセス・オートメーション設備で、23億5000万元の資産減損を計上した。この外、特許権、ソフトウェアの二種類の無形資産の減損は1億元に及び、建設仮勘定は1億2000万元だった。

メディアの報道によると、アップルのサプライヤーは往々にして、カスタマイズされた生産ラインが必要であり、取引停止になると、そのライン等の設備は廃棄せざるを得ず、仮に転売するとしても「涙を飲んで在庫一掃価格」で売らざるを得ない。

これらのロボティック・プロセス・オートメーション設備は高額である。この文書は特に3項目に注目している。その筆頭の簿価は24億元であり、取引停止後、折半にしたが、減損は12億8000万元だった。もう一つの簿価8億元の設備は直接廃棄処分にしたので減損



率は 99%に達した。

欧菲光の 5 月の業績は大幅に下落し、純利益は 9 億元の黒字から 19 億 4500 万元の赤字に転落した。

この外、文書には次のような記載がある。2018～2020 年にアップル業務のみから得た巨額の営業収入は各年 83 億 3000 万元、117 億 2000 万元、145 億 1000 万元だが、全体の粗利率はわずか 8%前後で、企業全体の粗利率 10%を明らかに下回っていた。

欧菲光がアップルのサプライチェーンからからはじき出された理由を、文書は初めて明らかにした（メディアでは早くから報じられていたが）。それによると、2020 年 7 月 21 日、米商務省産業安全保障局(BIS)は米国輸出管理規則（EAR）に基づき、欧菲光の子会社、南昌欧菲光テクノロジー有限公司を禁輸対象の「エンティティリスト（EL）」に加えた。実際にはこの子会社の業務はアップルとは無関係だが、アップルが最も主要なユーザーの一社であったことを考慮し、欧菲光は 2020 年 12 月 31 日現在、「域外特定ユーザー」の業務と関連する全資産に対して減損テストを行った。

2021 年 3 月 12 日までに、「域外特定ユーザー」は欧菲光との業務提携を終了する計画である、と通告した。それ以降、欧菲光の株価は下落し続け、昨年の高値は 20 元だったが、最近では一気に 8 元前後に下がり、なんと時価総額 300 億元近く、60%が蒸発した。

中国でアップルのサプライチェーンに組み入れられることは、巨大な宣伝効果があり、巨大な利益も意味している。その利益は往々にして株式市場での株価の高騰に表れる。しかし、それはもろ刃の剣でもあり、サプライチェーンのリストから除外されると、その損失も巨額に上る。欧菲光集団が生々しいその例である。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com